

●冬のこの時期にしか見れない生き物を観察するのも面白いですよ。

寒さが厳しくなり、北から冬鳥が飛来する時期になりました。多くの生き物が水辺に集まってきます。また、この時期にしか咲かない花もあります。夏とは違った賑わいを見せる公園をてくてく散歩してみたいはいかがでしょうか。

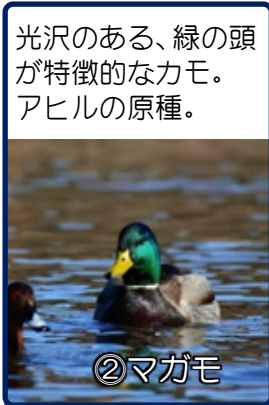
● 冬に飛来する水鳥たち

■毎年冬になると渡り鳥が飛来します。御所沼やハス池など水辺が多いエリアでよく見かける鳥をご紹介します。



①コガモ

40cmに満たない大きさの小型でかわいらしいカモ。



②マガモ

光沢のある、緑の頭が特徴的なカモ。アヒルの原種。



③オオバン

大きな群れを作り、園内では草地を歩く姿を観察できる。

水鳥がもつ熱交換システム

冬になると、北風の吹く池の氷の上で片足立ちをして羽を休める水鳥をよく見かけます。寒くないか心配になると思いますが、実は水鳥には隠された秘密があり、寒い冬でも体を暖かく保てる仕組みを持っています。

彼らの足の付け根には、特殊な血管の構造があり、冷たい血液が流れる静脈が、暖かい血液が流れる動脈のまわりに網のように絡みつき、また、その動脈も枝分かれしているため、血液が心臓に届くまでに十分温まり、体温を一定に保つことができるのだそうですよ。

○ 芳醇な香り ロウバイの花

■ロウバイは、この時期ひととき芳醇な香りを漂わせ、半透明で黄色く厚みのある花を咲かせます。花弁が蝋細工のようだというところからこの名がついたといわれています（諸説あります）。



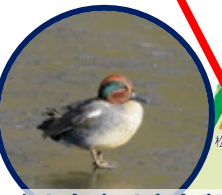
④ロウバイ

公園の敷地内でイノシシが目撃されました！

イノシシに出会ってしまったら、①落ち着いてゆっくり行動、②攻撃や威嚇をしない、③ウリ坊（イノシシの子供）を見ても近づかないようにしてください。もしイノシシを見かけたら管理事務所までご連絡ください。

古河公方公園管理事務所 TEL：0280-47-1129

★…トイレの水道が凍結する恐れがあります。ご注意ください。



氷上を歩く水鳥を観察できるのは、この時期だけ！！

イノシシ出没エリア

今月の鳥 「シメ」

スズメ目アトリ科に分類されるシメ。北海道で繁殖し、秋になると本州に渡ります。すずめよりやや大きく、幅のある太いくちばしが特徴です。そのくちばしは力強く、30kg以上もの力を加えることができ、エノキ、カエデ、ムクノキなどの硬い種子を割って中身だけを食べることができます。またくちばしの色がロウソクの蝋(ろう)に似た白色から、「蝋嘴鳥(ろうしゅうちょう)」とも呼ばれます。



⑤シメ

★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

公園の様々な情報をアップしていますので、是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

- Instagram @koga_kubou
- X (旧 Twitter) @kubou_park

Instagramアカウント



X (旧Twitter) アカウント

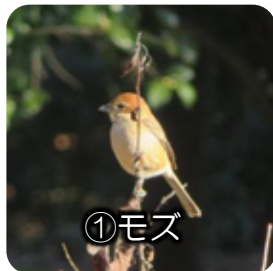


●寒い中にも春の気配が感じられる季節です。

この時期は、二十四節季でいう立春の季節です。今年は暖冬で、春に咲く花の開花が早まりそうですが、まだ北風が身に染みます。油断せず暖かい服装で、てくてく散歩をお楽しみください。

●冬の里山で暮らす野鳥

■園内ではこの時期になると、昆虫や植物の種子や花の蜜など、豊富な食料を求めて飛来する野鳥を数多く観察することができます。秋になると避寒のため、北方から渡ってくるツグミやジョウビタキなど身近に暮らす冬鳥をご紹介します。近年では温暖化の影響で気温の上昇とともに、渡りの時期も変化が生じているようです。



①モズ



②ジョウビタキ



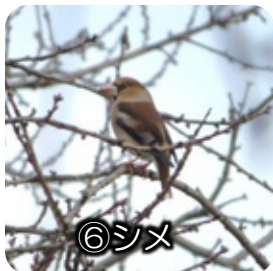
③ツグミ



④シロハラ



⑤メジロ



⑥シメ

●梅の香り漂う『御所の梅林』

■この地は鎌倉公方足利成氏（あしかがしげうじ）が1455年に古河に移座し、初代古河公方と名乗った地で、以来175年間、古河公方やその子孫により鴻巣御所として使われてきました。現在、その一角にウメを植樹し、『御所の梅林』と名付け、時期になると紅白のウメが漂う梅林となりました。



★ウメ



★ウメ

梅は古代中国から来た！？

日本にあるウメは、一説によると弥生時代に渡来したと考えられています。また、奈良時代から庭木として楽しまれ、江戸時代には果実の栽培も行われていました。

★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

公園の様々な情報をアップしていますので、是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

- Instagram @koga_kubou
- X (旧 Twitter) @kubou_park

インスタグラムアカウント



X (旧ツイッター) アカウント



ヒヨドリは1970年頃までは冬鳥でした。しかし、温暖化の影響か、現在は一年中観察できる留鳥になってしまったようです。

イノシシ出没注意！

今月の鳥 「カワウ」

カツオドリ目ウ科に分類されるカワウ。魚とりが上手な大型の水鳥で、魚や甲殻類などをよくたべます。普段は集団で生活しており、夜明けになると群れてエサ場に移動します。V字形の編隊を組んで飛ぶため、ガンとみまちがえられることもあるそうです。また繁殖期には、ねぐらの水辺にコロニーと呼ばれる集団営巣地をつくり繁殖を行います。環境の悪化により一時は個体数が激減したものの、現在は回復し、むしろ増えすぎて漁業への影響が懸念されていることに加え、コロニーを作る際、生きた樹木の枝を折ることや、大量の糞により近辺の樹木は枯死することが問題となっています。昔は自然が多かったため、自然が多少破壊されても影響がなかったのですが、現代では自然が少なくなったためか、カワウが自然や人間社会に与える影響が相対的に大きくなっているようです。

⑧カワウ

●歴史ある古河の桃林で、咲き乱れる花桃をご堪能ください。

○古河公方公園の花桃の種類はどれくらい？

●園内には、主に6種類の花桃が植えられています。園内の9割が『矢口（やぐち）』という品種で、他の花桃に比べて早く咲きます。また、『源平（げんぺい）』は、一つの木に紅白2色の花がつく、珍しい花桃です。『菊桃（きくもも）』と呼ばれる品種は花びらが菊の花のような形状をしています。他にも空に向かってまっすぐに枝を伸ばす、『照手（てるて）』、真っ白い花を咲かせる『寒白（かんぱく）』、低い高さで花を楽しめる『寿星桃（じゅせいとう）』もあります。



○春は花桃の季節です。

●3月は花桃が咲く季節です。公園でも多くの花桃が花を咲かせます。2月は梅、3月は花桃、4月はソメイヨシノの順で花が咲きます。この時期、ひな祭りに桃の花を飾るのは、旧暦の3月3日にちょうど桃の花が咲いていたからだといわれています。昔の野山には、春になると桃の花を咲かせていたのかもしれませんが。桃の花のかわいらしいピンク色は、今も昔もひな祭りのイメージにぴったりあったのかもしれませんね。



邪を打ち払う桃の力！

古事記によると、イザナギノミコトが黄泉の国へ行った帰りに桃の実を投げつけて化け物を追い返した、という話があります。そのことから、桃の木には魔除けの効果があるといわれています。昔は女性に桃の木でつくられた櫛を贈る習慣がありました。また、筑波山神社で行われる「年越祭」では、この公園の桃の枝でつくられた弓を使用しています。



今月の鳥「アオジ」

スズメ目ホオジロ科ホオジロ属に分類され、全長16cmとスズメより少しだけ大きな鳥です。オスは頭部が黄緑色で体全体は黄色がかった色をしており、昔は緑色を青色と呼んでいたことからその名がついたといわれています。（諸説あります。）また、アオジは用心深く、声で近くにいることはわかってなかなか姿を見つけることが出来ません。藪の中から「チッチ」という鋭い声が聞こえたら、立ち止まって待ってみてください。藪から飛び出てきたところを観察できるかもしれませんよ。



★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

公園の様々な情報をアップしていますので、是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

- Instagram @koga_kubou
- X (旧 Twitter) @kubou_park

インスタグラムアカウント



X (旧ツイッター) アカウント



●桜舞い散る新緑の息吹、新たな始まりです。

○公園内に咲く花タンポポ

公園で咲くタンポポには、日本タンポポと西洋タンポポがあります。春に咲くものは、日本に昔からある在来種です。タンポポが咲くと春の訪れを感じ気持ちも暖かくなりますね。



①日本タンポポ



西洋タンポポ

日本タンポポと西洋タンポポの見分け方

在来タンポポの花は一つの茎の先に房状に咲き、黄色い花弁が特徴です。一方、西洋タンポポは長い茎の先に一輪ずつ咲き、花びらが少なく、より細かい印象を与えます。また、総苞が下に反り返っています。園内のあちこちに咲きます、探してみてくださいね。



総苞

(そうぼう、写真は西洋タンポポ)



今月の鳥 【ウグイス】

スズメ目ウグイス科ウグイス属に分類され、オスは全長約15.5cm、メスはそれより2cmほど小さく、色はオス・メス同じ、ヤブの中にいることが多く、見つけることは難しいです。さえずりは、ホーは吸う息、ホケキョは吐く息、胸をふくらませてさえずります。その鳴き声は、春の訪れを告げることから「春告鳥（はるつげどり）」、日本三鳴鳥（にほんさんめいちょう）でもあります。また古今和歌集では「鶯（うぐいす）の谷より出づる声なくは春来ることを誰か知らまし」と詠まれています。「鶯よ、早く山から出て来て皆に春を知らせておくれ」という思いを詠んだものです。古くから日本の文化に根付き、親しまれている鳥なのですね。



★ウグイス

○公園名所案内「古河公方足利義氏墓所」

古河公方第五代足利義氏は1541年に生まれ、1552年から1583年まで古河公方を務めました。義氏は北条氏の影響下で実権を持たず、1583年に亡くなりました。その後、古河足利家は断絶しましたが、義氏の娘（氏姫）が喜連川氏を興しています。義氏が葬られたと考えられる徳源院跡は、桃林の中にあります。



③徳源院跡

★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

- Instagram @koga_kubou
- X (旧 Twitter) @kubou_park

○春、桜と言えばソメイヨシノですね

ソメイヨシノは、日本の代表的な桜の品種であり、淡いピンク色の花が斉に咲き誇り風に舞う様子は神秘的で美しいですね。花びらの数は5枚一重咲きの品種です。江戸時代に枝垂れ桜の特徴を持つソメイヨシノが誕生し、現在では全国各地に植樹されています。



②ソメイヨシノ

○4月の花のご紹介

これから4月中旬から下旬にかけて花を咲かせる花木のご紹介です。ハナミズキは、美しいピンク色の花を咲かせる落葉高木。フジは、つる性の落葉樹で、春に紫色や白色の花を咲かせます。ボタンは、春から初夏にかけて色鮮やかな花を咲かせます。これから咲き出す花が楽しみですね◎



④ハナミズキ



⑥フジ



⑥ボタン

インスタグラムアカウント



X (旧ツイッター) アカウント



●新緑が鮮やかに彩り初夏の息吹を感じます。

○猿島台地に広がる原風景、茶畑は収穫の季節です。

公園南エリアの民家園の前には、茶畑が広がっています。この茶畑は昔から猿島地方で栽培されていた猿島茶の茶畑を再現したものです。猿島茶の歴史は古く、江戸時代に関宿藩が茶の栽培を奨励したことから盛んになり、幕末に日本で初めて海外（アメリカ）へ輸出されたお茶になります。このお茶は、緑茶として栽培され、さわやかな香りと深い味わいが特徴です。また、公園の茶葉は、収穫のあと丁寧に加工され公園管理事務所にて販売しています。



①茶畑



茶の葉

ふるさと古河新茶まつり開催

新茶の収穫にあたる毎年5月に「ふるさと古河新茶まつり」は、開催されます。茶摘みや茶席の他、お茶に関する出店があります。本年は**5月19日開催**です。

今月の鳥 【コジュケイ】

キジ目キジ科コジュケイ属に分類される鳥類。全長は約30cmと胴体はハトと同じ位の大きさです。名前は同じキジ科のジュケイより小型であることに由来しています。警戒心が非常に強く、見つけることが難しい鳥です。しかし、鳴き声は大きく、繁殖期にオスは、「ピーッ、ピーッ、ピーッ」と大きく鳴いたあとに、早いテンポで「ビッググイ、ビッググイ、ビッググイ」とさえずります。その鳴き声は「チョットコイ、チョットコイ」と聞こえます。英語圏では「people play(人々が祈る)」と聞こえるようです。



★コジュケイ

○園内名所案内「富士見塚」

古河公方公園（古河総合公園）は、1975年に開園しました。その後、基本計画の見直しが1989年に始まり、最初の大きな事業として、富士見塚が完成されました。その後、御所沼の復元、天神橋の完成、シェラテリア、管理棟などが、次々に設置され、現在の公園の形になりました。富士見塚は、渡良瀬川の堤防と同じ標高22mです。その頂上からは、公園の景観、また3月になると華やかな桃林が見渡せます。



⑥富士見塚



○5月の花のご紹介

これから5月初旬から下旬にかけて花を咲かせる花木のご紹介です。カキツバタは、アヤメ科の多年草で、湿地や湿った草地を好みます。鮮やかな紫色や青紫色の花を5月に咲かせ、カキツバタは、伝統的な日本庭園や水辺の風景に調和し、季節の移り変わりを感じさせる花として親しまれています。フジは、つる性の植物で、美しい房状の花を咲かせます。紫色や白色の花房が長く垂れ下がり、春から初夏にかけて満開になります。ラベンダーは、シソ科の多年草で、紫色の小さな花が房状に咲くことが特徴です。その独特な芳香はリラックス効果や鎮静作用があるとされ、アロマセラピーや香水、ハーブティーなどに広く用いられます。



②カキツバタ



③フジ



④ラベンダー

★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

- Instagram @koga_kubou
- X (旧 Twitter) @kubou_park

インスタグラムアカウント



X (旧ツイッター) アカウント



●雨音と共に、緑が深まる爽やかな初夏の景色。

○梅雨を彩るアジサイ、雨に映える豊かな色彩を楽しみませんか。

中山台の北側、桃林に挟まれた場所にアジサイの咲く小径（コミチ）があります。アジサイは、日本、中国、韓国を含む東アジア地域が原産国、特に日本では、6月から7月にかけて、雨に濡れた美しい花を咲かせることから「梅雨の花」として親しまれています。花色は土壌のpHによって変わり、酸性の土では青、アルカリ性の土では赤みを帯びた花を咲かせます。また、その美しい花姿と色の变化から、古くから和歌や俳句の題材にもなっており、松尾芭蕉は、「紫陽花や 昔を今の 色香にも」、また、与謝蕪村は、「紫陽花や たまにすぎゆく 雨の中」と句に詠んでいます。文化的にも重要な植物です。

アジサイ花後のお手入れ

【参加者募集】きれいに咲いたアジサイの花、来年もきれいに咲かせたいなら、花後の剪定作業は欠かせません。剪定後の枝を挿し木用に差し上げます。**7月27日(土) 9時30分～12時実施** 公園HPに詳細有



○園内名所案内「公方様の森」

公方様の森は、享徳の乱（1455年）により、鎌倉から追われ古河を本拠地とした足利成氏（初代：古河公方）が、この場所に最初に館を作ったことに由来します。その後、最後の古河公方5代義氏の娘、氏姫は、1620年46歳で没するまで、この地に住み続けたといわれています。現在の森は、ふるさとの風景である、里山の植生豊かな雑木林の森となっており、コナラ・イヌシデ・クヌギ・ウワズミザクラ等、来園者の方に木陰を供給する憩いの場となっています。



○6月の花のご紹介

③ドクダミは、多年草の一種で林床などに小さな白い花を咲かせます。漢方薬としても使われています。公園のあちこちで見ることが出来ます。
④ナツツバキは、ツバキ科の落葉樹。公園正面入り口の左側に咲いています。
⑤ノウゼンカズラは、つる性の落葉樹で鮮やかなオレンジ色の花を付けます。雪華園で見ることが出来ます。



③ドクダミ

④ナツツバキ

⑤ノウゼンカズラ

6月の昆虫【コシアキトンボ】

コシアキトンボは、本州・四国・九州に分布。大きさは40～45mm。池や沼などに生息し、園内でよく見かけるトンボの一種です。縄張り意識が高く、常に池の上を飛び回っています。名前の由来はお腹の上部だけが白く、体の真ん中（腰）があいているように見えることからコシアキトンボと名付けられた説があります。またメスと未成熟なオスはお腹の部分が薄い黄色をしています。初夏の御所沼をパトロールする様子や、お腹の模様などぜひ観察してみてくださいね。



★コシアキトンボ

★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

- Instagram @koga_kubou
- X (旧 Twitter) @kubou_park

インスタグラムアカウント



X (旧ツイッター) アカウント



●小鳥さえずる森の深緑に染まる木陰の休息。

○朝露に輝く大賀ハスの花、静かな池を彩る公園の夏の風景

古河公方公園では、今年も美しい大賀ハスの花が咲き誇る時期を迎えました。朝の静寂の中で咲き誇る蓮の花、蓮池一面に咲く姿は幻想的で、心を和ませてくれます。蓮の花は、日の出と共に咲き始め9時頃に満開になります。訪れる方々には、ぜひ早朝の涼しい時間帯にお越しいただき、この季節ならではの風景を楽しんでいただきたいと思います。蓮の花は、蕾から満開、そして散るまでの間に様々な形や色の変化を見せます。それぞれの段階で異なる美しさがあります。蓮の花の美しさを感じながら、ゆったりとしたひとときをお過ごしください。花情報は公園の公式 SNS (X (旧 Twitter)、Instagram) で発信しております、ご確認ください。

古河公方公園の大賀ハス

大賀ハスとは、植物学者の大賀一郎博士が 1951 年に千葉県泥炭層から発掘し発芽させたことで有名な蓮です。古河公方公園では、1975 年に千葉市から株を譲り受けて育て、現在では、約 3000 m²の蓮池に満開の花を咲かせています。



①満開の蓮池



○園内名所案内「御所沼」

室町時代に古河公方足利成氏(シゲウジ)が築いた古河公方館跡の周囲に位置することから、御所沼と呼ばれて来ました。戦後の食糧難の時代には埋め立てられ水田に変わりましたが、1992-1996 年かけ公園の一部として御所沼の復元が行われ今に至ります。古い伝説では、ダイダラボッチの足跡との言い伝えがあり、また「星湖」の美称があります。現在では、水生生物や水鳥、貴重な湿地性植物(イヌタヌキモ、イトトリゲモなど)も確認されており、市民の憩いの場となっています。

※一部出典：中村良夫著 湿地転生の記より



②御所沼

○7月の花のご紹介 ③ヤマユリ・④サルズベリ・⑤ガガブタ

③日本の代表的なユリで大型の白い花と甘い香りが特徴です。公方様の森に生えて居ます。④サルズベリは、夏に鮮やかなピンクや赤の花を咲かせる木です。滑らかな樹皮が特徴で中山台や松月院の四阿にあります。⑤水辺や池に生育する水草で、夏に小さな白い花を咲かせます。御所沼で見ることが出来ます。



③ヤマユリ



④サルズベリ



⑤ガガブタ

★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

- Instagram @koga_kubou
- X (旧 Twitter) @kubou_park

インスタグラムアカウント



X (旧ツイッター) アカウント



7月の昆虫【クサカゲロウ】

アミメカゲロウ目クサカゲロウ科に分類される昆虫。黄緑の体に綺麗な透明でレース状の羽根を持ち、夏から秋にかけて見られます。卵は、如来(にょらい)が三千年に一度現れる時に咲く憂曇華(うどんげ)という伝説の花に似ていることから、ご利益のある虫とも言われています。また、成虫は夜行性で、主に花の蜜や花粉を食べますが、幼虫は、たくさんのアブラムシやハダニなどを食べて成長する益虫にもなり、いいことづくしの昆虫さんです。公園では、森や野原、桃林で見かけます。



★クサカゲロウ



★クサカゲロウ卵



●燦々と降り注ぐ太陽の煌めき、夏休みの思い出。

○公園の憩いのスポット中山台、真夏に映える百日紅の鮮やかさ

中山台は、公方公園の中心に位置し家族で楽しめるスポットです。富士見の丘からは、眼下に美しい景色が広がり、遊具広場では子供たちが元気に遊ぶ姿が見られ、夏には大ケヤキが木陰を提供し百日紅の花が楽しめます。丘に流れる小川は、冷たい地下水が流れています。子供達に大人気の場所として、夏場には涼を求める家族で賑わいます。また、休日になると芝生広場では、バーベキューをする人達の姿が見受けられます。道具や食材を持ち込んで仲間とのんびり過ごす、かけがえのない時間を提供する場所として、中山台は、市民に親しまれています。



① 中山台の百日紅

公方公園でのバーベキュー利用

公方公園ではバーベキューをすることが出来ます。場所は①中山台の芝生広場と、公園西側の大きな②芝生広場の2か所です。使用するには、当日、空き状況を確認して管理事務所で申し込みます。道具や食材は持ち込み、ゴミや灰などは持ち帰ることになっています。詳しくは下記まで問合せ 電話 0280-48-1129

○公園名所案内「天神橋と胞衣の松、氏女（うじひめ）のお話」

氏女は、最後の古河公方5代義氏の娘です。名家が途絶えるのを惜しむ豊臣秀吉の命により、同じ血筋の小弓公方（足利義明）の孫・国朝と結婚しましたが、すぐに国朝は病死、その後に国朝の弟・喜連川頼氏と再婚、嫡男・義親をもうけました。その義親が生まれたとき、氏女はその健やかな成長を祈願して、館に続く松かげに天神を祀り、胞衣（えな）かけの松を植えたといひます。平成元年に公園の基本計画の見直しが行われ橋が出来たときに、その橋は天神橋と名付けられ、ふもとに二本の松が植えられました。

※一部出典：中村良夫著 湿地転生の記より



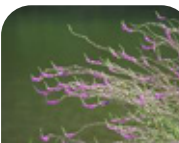
③胞衣の松

○8月の花のご紹介 ④ノウゼンカズラ ⑤ミソハギ ⑥キョウチクトウ

④中国原産の落葉性のつる植物です。夏から秋にかけて、大きく美しいオレンジ色や赤色の花を咲かせます。⑤ミソハギ科の多年草で、夏に紫色の花を咲かせる。お盆の供花としても使われます。⑥キョウチクトウ科の常緑低木で、夏に紅色の花を咲かせます。有毒成分を含むため注意が必要です。



④ノウゼンカズラ



⑤ミソハギ



⑥キョウチクトウ



8月の昆虫【ナナフシモドキ】

ナナフシは、擬態がとっても上手、身近にいるナナフシは「ナナフシモドキ」か「エダナナフシ」のどちらか、見た目はそっくりですが、エダナナフシの触角は前脚と同じくらいに長く、ナナフシモドキはそれと比べると短いです。写真は、どろんこクラブの子どもたちが発見したナナフシモドキです。「ななふし」とはもともと「七節」、つまり木に多くの枝があることを意味し、その枝によく似ている（擬態している）ことから「七節もどき」という和名がついたそうですよ。



★ナナフシモドキ

★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

- Instagram @koga_kubou
- X (旧 Twitter) @kubou_park

インスタグラムアカウント



X (旧ツイッター) アカウント



●空高く澄み渡る秋空のもと、心を癒す涼風散歩

○たくさんの秋を探してみませんか？公園散歩「秋の七草狩り」

秋の訪れとともに公園では、秋の七草が姿を見せます。①ススキ、②ハギ、③クズ、④オミナエシ、⑤ナデシコ、⑥キキョウ、⑦フジバカマすべて公園内にあります。これらの心を癒す草花は、秋の風物詩として昔から日本人に親しまれ愛されてきました。また、和歌や絵画のテーマとして古くは、山上憶良の和歌、尾形光琳の「秋草図屏風」、酒井抱一の「秋草図」などに表現されています。そんな風情溢れる草花、公園を散策しながらの「秋の七草狩り」楽しんでみては、いかがでしょうか。美しくも儚い秋の風情、その季節の移ろいをお楽しみください。



秋の七草の和歌 山上憶良

万葉集より「秋の野に咲きたる花を指折りかき数ふれば 七種の花 萩の花 尾花 葛花 撫子の花 女郎花 また 藤袴 朝顔の花」 ※尾花（ススキ）、朝顔の花（キキョウ）



○公園名所案内 「ジェラテリア」 建築家ユニット SANAA 設計

ジェラテリアは、建築家ユニット 妹島和世（せじまかずよ）氏、西沢立衛（にしざわりゅうえ）氏による「SANAA」により設計されました。建築界のノーベル賞とも称される「プリツカー賞」を受賞した世界的建築家です。建物は、ガラス張りのデザインが特徴で、自然光を取り入れた開放的な空間を提供しています。周囲の自然環境と調和しリラックスした時間を楽しむための、理想的な場所となっています。シンプルで洗練された美しさを、ぜひ体感してください。



○9月の花のご紹介 ⑨ヒガンバナ ⑩キンモクセイ ⑪コルチカム

⑨ヒガンバナは、秋の彼岸の頃に咲く真紅の花、葉がない茎に独特の形状の花が咲きます。日本各地で見られ、神秘的で美しい花を咲かせますが、毒性があるため注意が必要です。⑩キンモクセイは、甘い芳香を放つオレンジ色の小花をつける木、庭木や街路樹として広く植えられており、秋の訪れを告げる象徴的な植物です。⑪コルチカムは、別名「イヌサフラン」とも呼ばれ、秋に紫やピンク色の花を咲かせます。全草に毒性があり注意が必要です。



9月の昆虫【チョウトンボ】

チョウトンボは、翅（はね）が蝶のように輝く美しいトンボで、湿地や池などで見られます。蝶のようにヒラヒラと飛ぶ姿は神秘的で翅を開いたり閉じたりする様子は手を合わせて祈る姿に似て神様の使いとして神聖視されました。その翅は青紫色や緑色に輝き、見る角度によって色が変わる「構造色」を持つのが特徴です。成虫は6月から9月にかけて活動します。オスとメスは似た外見ですが、メスの翅の輝きはやや控えめです。環境の変化に敏感なため、湿地の保全が重要とされています。



★チョウトンボ

★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

- Instagram @koga_kubou
- X (旧 Twitter) @kubou_park

インスタグラムアカウント



X (旧ツイッター) アカウント



●澄んだ秋空のもと頬を撫でる透明な風を感じてみませんか

○どんぐりころころどんぶりこ 「秋の収穫散歩」してみませんか

秋の公方公園には、たくさんの種類のどんぐりがあります。
形や特徴を覚えて秋の公園に探しに行ってみませんか。

- ①マテバシイはシイ類の一種で、細長い形の実を付けます。
- ②スタジイは常緑広葉樹で、強い耐陰性を持ち森の中で見られます。
- ③クヌギは雑木林の代表的な木で、カブトムシの食料としても重要です。
- ④シラカシ⑤アラカシは、常緑樹です。街路樹としても活用されます。
- ⑥トチノミは秋になると大きな実を落とし、その実はトチモチなどの食用の材料にも利用されます。



オニグルミの食用の歴史

古くからオニグルミは栽培されており、縄文時代の遺跡からもクルミの殻が出土しています。これは、当時からクルミが重要な食料資源であったことを示しています。



○公園名所案内 「若杉鳥子 長塚節歌碑」 切ない恋の物語

桃林の一角に、長塚節と若杉鳥子の歌碑が佇んでいます。そこには、古河生まれの若杉鳥子に一目惚れした長塚節の恋心と若杉鳥子の物語があります。二人は出会うことなく終わりを迎えました。切ない気持ちを詠んだ歌碑を見ながら、自身の昔日に想いをはせてみませんか。

●まくらがの古河の桃の樹ふゝめるを いまだ見ねどもわれ恋ひにけり 紅の下照り匂ふもゝの樹の立ちたる姿 おもかげに見ゆ 長塚 節

●み歌今われなき家の文箱に忘られてあり身は人の妻 まくらがの古河の白桃咲かむ日を待たずて君は隠れたまへり 若杉鳥子



○10月の花・実・紅葉のご紹介 ⑨コスモス ⑩モチノキ ⑪カツラ

⑨コスモスは、秋を代表する花でメキシコ原産の1年草です。日本には幕末に渡来しました。⑩モチノキは、モチノキ属の常緑高木です。樹皮からは、鳥を取るための「鳥もち」を作ったことからトリモチの名称があります。⑪カツラはカツラ属の落葉高木です。ハート形の葉は秋に黄葉します。



10月の昆虫【エンマコオロギ】

コオロギの「コロコロコロ」という涼しげな鳴き声が聞こえはじめると、秋の訪れを感じます。エンマコオロギは、コオロギ属の中では最大で32mmほどになります。古くコオロギはキリギリスと呼ばれ、キリギリスはハタオリと呼ばれていました。古今和歌集には「秋風にほころびぬらし藤袴つづりさせてふきりぎりす鳴く」という歌があります。秋のフジバカマ（藤袴）が咲いた風情を袴のほころびにたとえ、そのほころびを冬に備えて「縫い合わせよ」と鳴いているという意味の歌です。



★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

- ・Instagram @koga_kubou
- ・X (旧 Twitter) @kubou_park

インスタグラムアカウント



X (旧ツイッター) アカウント



●静かな秋の空気に包まれて、身も心もリフレッシュ散歩！

●紅葉狩り 色とりどりの落ち葉を踏みしめる贅沢なひとときを

赤や黄色に染まった森の中、落ち葉を踏みしめながらの散歩が楽しい季節になりました。それぞれの樹木の特徴を知っていると、散歩が一層楽しくなります。葉の形を覚え地図で場所を確認して、秋の公園に探しに行ってみませんか。

- ①ユリノキは、モクレン科ユリノキ属に属する落葉高木、北米原産です。
- ②イロハモミジは、古くから親しまれている紅葉の代表的な種です。
- ③ドウダンツツジは、ツツジ科ドウダンツツジ属の落葉低木、垣根などに活用。
- ④ナンキンハゼは、トウダイグサ科、中国原産の落葉高木です。



① ユリノキ



② イロハモミジ



③ ドウダンツツジ



④ ナンキンハゼ

イチョウの話

イチョウは、約 2 億年前から存在する「生きた化石」として知られ、耐久性が高いため街路樹に利用されます。また、実は食用の他、葉は血液循環の改善や抗酸化作用を持つとされ薬用としても使われています。



⑤ イチョウ



●公園名所案内 「地名碑」公園に落とし込まれた郷土

1975 年に開園後、1989 年に基本計画の見直しが行われ、御所沼の復元等、現在の公園が出来上がりました。その見直しには、古河市出身で景観学の権威であった中村良夫氏が設計・監修をされました。氏は、その著書※の中で、公園の地名碑について次のように言及しています「公園のあちこちの場所に名を与える。石碑に刻まれた言葉によるイマジネーション。空間に意味を与える技術

※抜粋」その石碑（言葉）に、郷土の古い地名や、イマジネーションをそそる命名を行いました。その碑の前にたたずむ人を詩的な感興へと誘っています。

※中村良夫著「湿地転生の記 風景学の挑戦」岩波書店



⑥ 地名碑

「芋ころがし坂」

●11月の花のご紹介 ⑦ツワブキ ⑧チャノキ ⑨キンモクセイ

⑦ツワブキは、キク科の常緑多年草で、大きな光沢のある丸い葉が特徴で、秋から冬にかけて鮮やかな黄色い花を咲かせます。

⑧チャノキは、ツバキ科ツバキ属の常緑低木で、緑茶や紅茶などの材料になります。

⑨キンモクセイは、モクセイ科モクセイ属の常緑小高木です。



⑦ ツワブキ



⑧ チャノキ



⑨ キンモクセイ

11月の鳥【ハシビロガモ】

カモ目カモ科マガモ属に分類される鳥類。冬にやってくる渡り鳥。全長 51 cm (オス)、43 cm (メス) と大きさはよく見かけるカルガモと同じくらいです。漢字で「嘴広鴨」と書き、シャベルのような平べったいくちばしが特徴的です。潜水はせず水面で餌をとるカモです。くちばしを水面につけ、プクプクさせながら泳ぎます。くちばしの側面に細かいくし状のものがあ、水草や植物プランクトンなどを濾しとるようにして採食しています。とても観察しやすいカモなので、ぜひ探してみてくださいね。



★ハシビロガモ (メス)



★ハシビロガモ (オス)

★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

- ・Instagram @koga_kubou
- ・X (旧 Twitter) @kubou_park

インスタグラムアカウント



X (旧ツイッター) アカウント



●冬枯れの静寂と澄んだ空気に包まれる癒しの散歩道



●「つわものどもの夢のあと」公園に残る古河公方の足跡

公園の愛称にちなむ「古河公方」について、その歴史と足跡をご紹介します。
 室町時代の1454年に、鎌倉公方であった足利成氏（初代：古河公方）は、数々の因縁から関東管領の上杉憲忠を誅殺し「享徳の乱」が始まりました。鎌倉から古河に座を移し、約30年間に渡り上杉氏（幕府方）と戦います。そして、幕府方との対立は、都鄙和睦（とひわぼく、1483年）により和睦することになります。その後、時代は変わり、敵であった上杉氏と手を結んで、北条氏と対立するなどしましたが、五代目の足利義氏の頃には、権勢を失ってしまいます。その娘、氏姫は、秀吉の命により、古河公方男系の流れをくむ小弓公方の孫と結婚し、その子孫は喜連川氏へと続いていくことになります。しかし氏姫は、館のあった場所である①公方様の森、生涯（1620年没）住み続けました。その義氏と氏姫の葬られた場所は、公園内の史跡②徳源院跡になります。



③公方様の森の古河公方館碑

古河公方とその系譜

初代：成氏
 二代：政氏
 三代：高基 義明
 四代：晴氏 (小弓公方)
 五代：義氏
 娘：氏姫…国朝、頼氏
 喜連川氏へ



○公園名所案内 「ランドスケープデザイン」開かれた空間

澄み渡る空気、葉が落ち見通しのいい森。冬は公園の景色を楽しむのにいい季節です。公方公園は、歴史的背景と自然環境を調和させたランドスケープデザインが特徴です。公園内の近景から、公園という枠を飛び越え、遠くの山々へ連なる遠景まで、「借景」が楽しめます。その公園内は明確な仕切りゾーニング（領域区分）を行わずに、空間の役割を曖昧なまま残すことで、見る者の視線を伸びやかに解き放ちます。設計者の中村良夫氏は、「茶畑の向こうに富士が見え、築山に登れば浅間山の煙が地平にたなびいている。振り向けば筑波の嶺が木の間から顔を出す。」と現わしています。出典 中村良夫著「湿地転生の記 風景学の挑戦」岩波書店



④筑波見の丘から見る筑波山の嶺

○12月の花と実のご紹介 ⑤サザンカ ⑥ヤブコウジ ⑦マユミ

④サザンカは、ツバキ科ツバキ目の冬に紅や白の花を咲かせる常緑樹です。
 ⑤ヤブコウジは、ツツジ科の常緑低木。赤い実と艶やかな葉が特徴で、正月飾りや庭木として親しまれます。
 ⑥マユミは、ニシキギ科の落葉小高木。秋に紅葉し、その後に淡紅色の実が裂けて種子が現れます。庭木に使われます。



⑤サザンカ



⑥ヤブコウジ



⑦マユミ

12月の鳥【ジョウビタキ】

ジョウビタキはスズメ目ヒタキ科の小鳥で、体長は約14センチ。日本では冬に見られる渡り鳥（近年は日本で繁殖する例も有）で、特に都市部の公園や庭でよく観察されます。オスは顔が黒く、頭が白銀色、胸から尾にかけて橙色で、メスは淡い褐色です。縄張り意識が強く、「ヒッ、キッ」や「カッカッ」と鳴きます。この音が火打ち石を叩く音に似ていることから「火焚き」と呼ばれ、「ジョウ＝尉」には、男性の老人の意味があり、オスの銀色の頭に由来しているという説があります。



★ジョウビタキ（オス）

★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

- Instagram @koga_kubou
- X (旧 Twitter) @kubou_park

インスタグラムアカウント



X (旧ツイッター) アカウント

